

# 平成 29 年度 社会福祉法人みはらし事業報告

## 法人本部

社会福祉法の改正に伴い理事会・評議員会ともに新体制でのスタートとなりました。経営状況並びに事業内容の透明化を目指し、利用者の方や地域の方に向けての情報発信に取り組んでまいりました。引き続き、理事・監事・評議員それぞれが機能を発揮し、健全な法人運営に努めていきます。

人材確保・人材育成については、新卒者採用に向けての求人広告媒体の活用、福祉系大学や専門学校への訪問、漫画家によるチラシの作成、資格手当の創設を行い取り組みました。業務執行理事による現場視察、施設内研修委員会の再構築、外部のコンサルテーションの導入を行いました。引き続き人材を大切に組織作りをしていきます。

## 理事会

### 第 1 回理事会 平成 29 年 5 月 12 日（金）

- 第 1 号議案 平成 28 年度事業報告（案）について
- 第 2 号議案 平成 28 年度収支決算（案）について
- 第 3 号議案 平成 28 年度社会福祉充実残額の有無について
- 第 4 号議案 評議員会の開催について
- 第 5 号議案 役員報酬規程の変更について
- 第 6 号議案 第三者委員の選任について
- 第 7 号議案 生活介護・地域活動支援センターディサービス型運営規定の変更について
- 報告事項 1 監事監査報告
- 報告事項 2 平成 28 年度社会福祉法人指導監査の結果について

### 第 2 回理事会 平成 29 年 5 月 29 日（月）

- 第 1 号議案 理事長互選について
- 第 2 号議案 常務執行理事互選について
- 第 3 号議案 定款細則の変更について

### 第 3 回理事会 平成 29 年 10 月 31 日（火）

- 第 1 号議案 育児・介護休業法の改正について
- 第 2 号議案 上半期事業報告について
- 第 3 号議案 上半期収支報告について
- 報告事項 1 理事長の職務の執行の状況について
- 報告事項 2 業務執行理事の職務の執行の状況について
- 報告事項 3 理事長専決事項の専決した事項について
- 報告事項 4 予備費の使用について

第4回理事会 平成30年3月16日(金)

- 第1号議案 平成29年度事業計画変更(案)について
- 第2号議案 平成29年度収支補正予算(案)について
- 第3号議案 平成30年度事業計画(案)について
- 第4号議案 平成30年度収支予算(案)について
- 第5号議案 経理規程改正(案)について
- 第6号議案 就業規則改正(案)について
- 第7号議案 非常勤就業規則改正(案)について
- 第8号議案 給与規程改正(案)について
- 第9号議案 監事監査規程変更(案)について
- 第10号議案 平成29年度第2回評議員会開催について
- 報告事項1 理事長の職務の執行の状況について
- 報告事項2 業務執行理事の職務の執行の状況について
- 報告事項3 予備費の使用について

**評議員会**

第1回(定時)評議員会 平成28年5月29日(月)

- 第1号議案 新役員の選任について
- 第2号議案 理事及び監事の報酬等の額
- 第3号議案 計算書類(貸借対照表及び収支計算書)及び財産目録の承認
- 第4号議案 社会福祉充実残額の有無の承認

第2回 評議員会 平成30年3月26日(月)

- 第1号議案 平成29年度事業計画変更(案)について
- 第2号議案 平成29年収支補正予算(案)について
- 第3号議案 平成30年度事業計画(案)について
- 第4号議案 平成30年度収支予算(案)について

## 中区障害者地域活動ホーム

29年度は、下記の4項目を基本姿勢として、事業に取り組んで参りました。

- 1：報・連・相の徹底
- 2：迅速対応
- 3：他機関間との連携
- 4：風通しのよい職場環境

29年度は、特に本人の高齢化に伴う新たな支援の組立や、緊急対応、複雑なニーズに対して、活動ホーム職員一同で個別に柔軟に対応してきました。

しかしながら、年度途中での中堅職員の退職により、利用者、ご家族が安心して利用できる環境を維持することができませんでした。

施設に関わる全スタッフが法人の理念を理解し、実現可能な運営方針になっているかを常に見直していく意識をもち、「法人型地域活動ホーム」の使命を果たせる施設になることを目指してきましたが、支援体制の安定が引き続きの課題となり、組織のあり方を根本的に見直すことを強く求められた年でした。

達成状況は下記の通りです。

### 重点項目

日中活動事業の安定運営。

年度途中での常勤職員の退職により、利用者とそのご家族に大きな不安を与えてしまいました。その件に伴い、利用希望に対して全ての方の受け入れをすることはできませんでした。

個別の対応・活動内容の見直し・他機関との連携など、その都度の対応はできるだけ丁寧に行ってきたことで、大きな事故はありませんでした。しかし、一つひとつの事案を総体的に捉えることができず、「安定運営」には至りませんでした。

部署ごとの縦割りではなく、各事業連携して一人一人のニーズに応えていく。

責任者会議を通して、各部署の状況を共有することができています。

緊急のショートステイ依頼、他機関からの日中活動利用の相談、本人の怪我等による長期送迎などについて、部署を超えての支援体制により対応し、現在できる方法で本人・ご家族のニーズに応えてきました。

本人主体のアセスメント力の強化

個別支援計画会議に相談員も入り、十分なアセスメントの元、計画が立てられているかを確認しながら、進めています。アセスメントシートとして使用している「とりあえずの接し方ノート」を個別支援計画作成時に確認し、内容に更新の必要項目があれば、聞き取りをして補充していきます。

## 中期計画について（3年目の取り組み）

日中活動の日々の利用者数が平均40人を達成し、運営面と支援面ともに軌道にのっています。

春・秋の実習を受け、希望された6名の新卒者を受け入れました。現状の体制では、これ以上の受け入れは厳しく、希望されている他の利用者（重心の方・土曜日希望の方）に方などの希望をすべて受けることはできませんでした。

職員体制の充実と、プログラムの見直し、部屋の使い方が引き続き継続課題として残っています。

1階の部屋を使うなどの新たな取り組み、活動グループのメンバー再編成、マンツーマンによる個室対応から少人数グループとの混合など、今後も工夫を凝らしていきます。

日中活動時間を17時までとし、支援者のシフトによる支援の混乱がなく、質の高いサービスを安定して提供しています。

送迎がある為、時間は短いですが、職員間で一日の振り返りを行う・記録に残す・コミュニケーションを図る流れはでき、引継ぎミスによる大きな事故や別の仕事をしながら利用者の支援をするような状態は無くなりました。次に必要なことは、スタッフ一人ひとりが、「自分が担当しているグループの引継ぎ」という意識を持つことです。

9時30分から17時までの活動に必要な体制は、送迎時間を含めると、終了時間が18時30分となる。そのため、毎日A勤とB勤の2つの勤務形態の組み合わせとなり、早出・遅出の複数人の支援者が意識を持って確実に引継ぎや情報共有のような意識を持つことが必要になってきます。

研修の仕組みを確立し、職員が定着しています。

29年度は、新しい職員も入職しました。

研修の仕組みが確立できず、直接支援に入る前に、障害の基本的な知識や、介助方法のマナーなど福祉分野の特性を伝えることが不十分でした。

今後は、研修のあり方など改善を行っています。

職員それぞれのセルフケアを尊重します。

休職中の職員に対し、定期的に面談を実施しました。

ストレスチェックは必須とまらない事業所規模ですが、「ストレスチェック実施者研修」を修了しました。次年度以降、身体・メンタルとともにセルフケアの啓発啓蒙に力を入れていきます。

## 相談支援事業

職員体制(平成 30 年 3 月 31 日現在)

( 基幹相談支援センター ) 相談員 : 常勤専任 3 名 ( 指定特定相談 ) 相談員 : 常勤兼務 1 名

### ( 1 ) 中区基幹相談支援センター

昨年度に引き続き、地域で暮らしている障害のある方やその家族からの様々な相談を受けとめ、安心して地域での生活が営めるよう取り組んでいます。

具体的な業務遂行に当たっては横浜市健康福祉局障害福祉課(平成 28 年 4 月)が示す「基幹相談支援センター業務連携指針」に基づいて進めています。

#### 専門的・総合的相談

#### 相談方法

	中区	他区	計
来所	132	78	210
訪問	114	66	180
電話	767	344	1111
メール等	21	3	24
同行	93	43	136
その他	28	28	56
合計	1155	562	1717

#### ( 特徴的な支援内容 )

- ・ 地域ケアプラザ等との連携による家族全体の支援。
- ・ 知的障害者同士の夫婦世帯で出産を迎えた方の支援。
- ・ 両親の病気により在宅生活が困難になり、他施設との連携により生活場所を調整。

#### 地域の相談支援体制の強化

- ・ 自立支援協議会の計画相談部会の定期開催(隔月で年 6 回)
- ・ 指定特定相談支援事業所訪問(7 か所)
- ・ 横浜市地域ケアプラザとの連絡会開催(2 か所)

#### 地域移行・定着の促進

- ・ 中区生活支援センターが進める「横浜市精神障害者地域移行・地域定着事業」への個別ケースを共有し、カンファレンスなどに同行しました。
- ・ 基幹相談支援センター地域移行・地域定着中央ブロック担当者での、勉強会・施設見学会を実施しました。
- ・ 平成 30 年 3 月に「平成 29 年度退院後生活環境相談員・地域援助事業者研修会 横浜市精神障害者地域移行・地域定着支援事業検討会」開催後、再度中区、南区に精神保健福祉や地域移行について関

- 係機関(基幹担当者・地域生活支援センター・区役所・病院関係)が集まり、意見交換を行いました。
- ・研修会を開催しました。(3月29日「地域移行とは、その支援とは何か」参加者 22名)

#### 権利擁護・虐待防止

- ・基幹相談支援センター 権利擁護・虐待防止への取組担当者会に参加しました。
  - 第1回 日時：平成29年5月24日 13:30～17:00 場所：市庁舎3階共用会議室
  - 第2回 日時：平成29年11月22日 13:30～17:00 場所：開港記念会館9号室
- ・成年後見サポートネットへ参画しました。
  - 平成29年度成年後見サポートネット分科会
    - 日時：平成29年9月14日 14:00～16:00 場所：中区福祉保健活動拠点 なかふく
  - 第2回 横浜市中区成年後見サポートネット 全体会
    - 日時：平成29年12月7日 9:30～11:30 場所：中区役所701・702号会議室
- ・成年後見制度利用希望者への制度説明を行いました。
- ・権利擁護研修を開催しました。(自立支援協議会主催)
  - テーマ「もし、障害のある方が事件に巻き込まれたら…」
  - 日時：平成29年7月4日 14:00～16:00 場所：中区役所7階会議室
- ・権利擁護研修を開催しました。(中区基幹相談支援センター主催)
  - テーマ「～事例からみる「あんしんセンター」の取組～」
  - 日時：平成29年10月24日 13:00～14:30 場所：中区生活支援センター

#### 地域独自の取り組み

- ・基幹相談支援センター 地域独自の取組担当者会に参加しました。
  - 日時：平成29年9月27日 13:30～17:00 場所：開港記念会館9号室
- ・作業所健康教室へ参画しました。中区高齢・障害支援課 障害者支援担当 保健師主催)
- \*平成28年度より開催しています。29年度はNPO法人新に所属する作業所の利用者を対象とした健康教室を3回シリーズで開催しました。
  - 第1回：平成29年9月13日 14:00～15:00 テーマ：食事
  - 第2回：平成29年10月10日 14:00～15:00 テーマ：衛生
  - 第3回：平成29年11月8日 14:00～15:00 テーマ：性
- ・中区内グループホーム訪問・調査 2か所

#### 3機関定例カンファレンス

- ・毎月1回開催(基本各月第四火曜日)
- ・中区高齢障害支援課、中区生活支援センターの3機関で構成
- ・新規相談者の情報共有
- ・3機関での連携が必要なケースの検討
- ・埋もれているケース(サービス利用が無い人、支援が途絶えた人、就職した人等)への対応
- ・アクションプランについて

・指定特定相談支援事業所の強みと弱みの共有とそれに基づく計画相談支援の検討

自立支援協議会事務局

中区障害者自立支援協議会の事務局として、中区福祉保健センター・中区生活支援センター  
中区社会福祉協議会と連携しています。

	開催日	議題・研修内容等
代表者会議	5月18日	平成28年度報告・29年度計画
合同担当者 会議	7月10日	平成28年度下期と29年度中間報告他
	1月19日	平成29年度上期と下期中間報告他
児童部会	5月11日	平成29年度の部会活動についての検討
	11月9日	講演会『より良い成人期を迎えるために』 講師：関水実氏
	1月17日	平成29年度の振り返りと30年度の取組について
グループ ホーム部会	4月27日	中区後見的支援室「らるご」説明 等
	6月22日	計画相談の現状について 事例検討
	8月24日	グループホーム見学会（社会福祉法人聖坂学園）
	10月26日	調理の際の工夫 グループワーク：課題について
	12月21日	研修会：グループホーム職員に必要な医療機関との関わり
	2月22日	平成29年度の振り返りと30年度の計画
障害者ヘル パー部会	5月17日	「強度行動障害の支援について」 フレクト 袋瀬氏より スーパーバイザー 二次相談 はなみずき
	7月19日	「医療的ケアを伴う各機関との連携等について」事例検討 ケアサ ービス コパン 遠藤氏より、利用者向けパンフレット作り
	9月20日	当事者の声を聴く（身体障害・家族からの声）、利用者向けパンフ レット作り
	11月13日	各事業所にリーフレットの配布。部会構成員で各事業所に回った。
	1月17日	研修『排泄ケア・紙おむつの選び方、快適な使い方』 講師：（株）ユニ・チャーム、協力：ホクゼン・アメニティ・サービ ス。栄区基幹相談支援センターの勝俣氏、部会見学。
	3月14日	29年度の振り返りと30年度計画、来年度（30年度）の部会長、副 部会長選任。リーフレットの件について
計画相談 部会	4月28日	中区後見的支援室「らるご」について KITTYメソッドによる事例検討
	6月23日	計画相談の現状について KITTYメソッドによる事例検討
	8月25日	グループワーク「計画相談をすすめ上での課題や工夫」 KITTYメソッドによる事例検討
	10月27日	就労支援センターの役割と支援内容について

		KITY メソッドによる事例検討
	12月22日	研修『本人中心の計画作成』
	2月23日	平成29年度振り返り、30年度計画
精神部会	4月7日	部会長副部会長選出と年間計画策定
	6月14日	寿福祉プラザ相談室ならびにはまかぜ見学
	7月7日	交流会・講演会について準備の進捗確認
	8月23日	交流会直前準備・講演会について準備の進捗確認
	9月6日	交流会
	10月6日	交流会の振り返り・講演会準備
	12月1日	講演会『人はなぜ病を得るのか 症状の意味と回復の仕組み』 講師 糸川 昌成氏
	2月2日	今年度の振り返りと来年度の計画
発達障害部会	8月1日	研修『不登校について考える』～生徒や家族に寄り添った支援とは～ 講師 岡田 弘 氏（東京聖栄大学）
	1月25日	研修『子どもたちの自立を目指して』～教員のためのもうひとつの進路指導～ 講師 川口 信雄 氏（横浜市若葉台特別支援学校）
進路懇談会	7月27日	養護学校・特別支援学校等の進路状況と、日中活動の受け入れ状況等について情報交換
見守り分科会	4月18日	29年度の取り組みについて
	6月6日	今年度のポスター・チラシのテーマについて
	7月11日	今年度のポスター・チラシの原案並びに提示先について
	8月25日	自閉症カンファレンスのポスターセッションの準備について
	9月12日	チラシ・ポスターの具体案の決定、配布計画の確認
	10月10日	今年度のポスター・チラシの確定稿・配布について
	11月7日	今年度のポスター・チラシの配布先の確認
全体研修	7月4日	権利擁護『もし、障害のある方が事件に巻き込まれたら...』 講師 川島 志保 氏（神奈川県弁護士会）
	10月4日	防災『障害者の防災を考える～今からできる地域づくり～』 講師 鍵屋 一 氏（跡見学園見女子大学教授）
事務局会議	毎月1回	全体の進捗状況確認等

## (2) 指定特定相談事業

29年度は、本事業の担当職員配置が困難だったため事業実績はありません。



## 日中活動

### 基本方針

安心できる環境の整備をし、「楽しかった。」「また行きたい。」と思っただけの支援を目指します。

### 重点項目に対して取り組んだこと

仲間の中で過ごしていることを実感できる活動と、一人ひとりに合わせた個別の対応をバランスよく提供します。

- ・活動のグループと食事のグループを変える、声をかけるタイミングを配慮することで、1人で残ってしまっていた方が、仲間と一緒に自分のペースで食事を楽しむことができるようになりました。
- ・個室でのマンツーマンの対応が必要な方も、朝の会や帰りの会には、他のメンバーと一緒に参加する時間をつくり、関係をつくっています。
- ・集中できる作業と環境を準備することで、複数人の人と一緒に部屋で過ごすことが出来るようになり、他のメンバーの方たちからも声をかけられる関係もできてきました。
- ・応えることができていない個別のニーズもありますが、できるだけ、安心できる環境の整備をし、「楽しかった。」「また行きたい。」と思っただけの支援を目指します。

きめ細かい配慮をし、誰もが「あたたかい」と感じる雰囲気をつくります。

- ・直接支援している中で感じた気づきや、配慮すべきことを共有し実行できています。
- ・本人と時間をかけて関係をつくることで、食事やトイレ、入浴など、自宅やGHでの支援が難しくなった方が日中の時間は介助を受け入れています。
- ・本人の体力の低下による体の変化や、度重なるケガや骨折などが起きている利用者への支援を相談・生活支援と一緒に考え、必要なサービスにつなげられるよう、身近な支援者として、本人や家族にお伝えしています。

### 具体的目標の達成度

#### あるとグループ

毎日決まった作業を準備し、わかりやすい過ごしを提供します。また、選択できるよう複数の作業・プログラムを用意します。

具体的な作業の提供はできているが、一部屋の人数が多く、わかり難さを解消できていません。日々、選択できることで、一日の流れが固定されない習慣ができていることもわかり難さの要員になっている。

その都度の選択ではなく、月単位、年計画で利用者と一緒に作業内容を決め、準備をすることは、未達成。

### ぶらんこグループ

本人が活動していると実感できるプログラムを提供します。スヌーズレン・ぶらんこなど感覚プログラムを積極的に取り入れていきます。

ぶらんこの部屋での活動だけではなく、音楽のプログラムに参加したり、カフェ販売によるロビーでの活動など、過ごしの場が広がっています。活動の場が広がることで、支援者との関係だけでなく、おもちゃ文庫の利用者、カフェのお客様、生活支援センターの利用者など、ポンテを利用している方達との関係も広がってきました。

### てんぼグループ

音楽・体操・レクリエーション等、曜日別プログラムの提案を安定し、継続していきます。体操については、理学療法士のアドバイスを受け、安全にひとり一人の体に合った内容を提供します。

講師は、安定して継続できている。ただ、長くかかわっているため、利用者に対する関わりに慣れや、思い込みが生じる危険性も出てきている。支援に必要な情報共有する時間や、施設の方針を再度確認することが必要だったが、全ての講師と実施することはできなかった。

講師がいない日のプログラムは、内容が決まらないまま、当日を迎えていることが多い。

体操のプログラムは、主治医から指示が出ている方は、個別に自分のやり方を支援者に伝え行っているが、特に指示が無い方に対しては、講師から教えてもらったやり方を実施している。

### そのたの主な活動について

クリーン活動やカフェの販売は、希望者も多く、人数の調整やメンバーの組み合わせを考えながら、できるだけ希望している方が参加できる形を作りました。

レクリエーションは、金曜日以外でも朝の時間や帰りの時間を使って季節の行事を取り入れ、メンバーと一緒に企画を考え実行してきました。

## 利用者数

2018年3月末日

契約者数実人数	生活介護	デイ型	計
29年度	82人	4人	86人
28年度(昨年度)	73人	13人	86人

月契約日数		~ 5	~ 10	~ 20	21~	計
29年度	生活介護	38人	18人	12人	13人	81人
	デイ型	2人	0人	3人	0人	5人
	合計	40	18	15	13	86
28年度	生活介護	35人	15人	15人	8人	73人
	デイ型	8人	1人	3人	1人	13人
	合計	43	16	18	9	86人

(29年度内分け 月1日 4人 週5日 13人)

区分	6	5	4	3	2	1	無し	計
29年度	28人	14人	15人	22人	4人	1人	2人	86人
28年度	27人	13人	17人	19人	4人	2人	4人	86人

年齢別人数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
29年度	6人	32人	6人	18人	15人	6人	3人	86人
28年度	4人	30人	7人	20人	16人	6人	3人	86人

日々利用数	月	火	水	木	金	土	日	平均
生活介護	22	23	29	22	23	17	7	20
デイ	1			2	2			

送迎利用者	50人	自力通所	26人	家族送迎	10人
-------	-----	------	-----	------	-----

入浴利用者	1/w	5人	2/w	3人
-------	-----	----	-----	----

## 会議

非常勤職員会議 毎月第一日曜日 10:30~12:00

常勤職員会議 毎月1回 18:00~20:00

個別支援会議 月3~4回 18:00~20:00

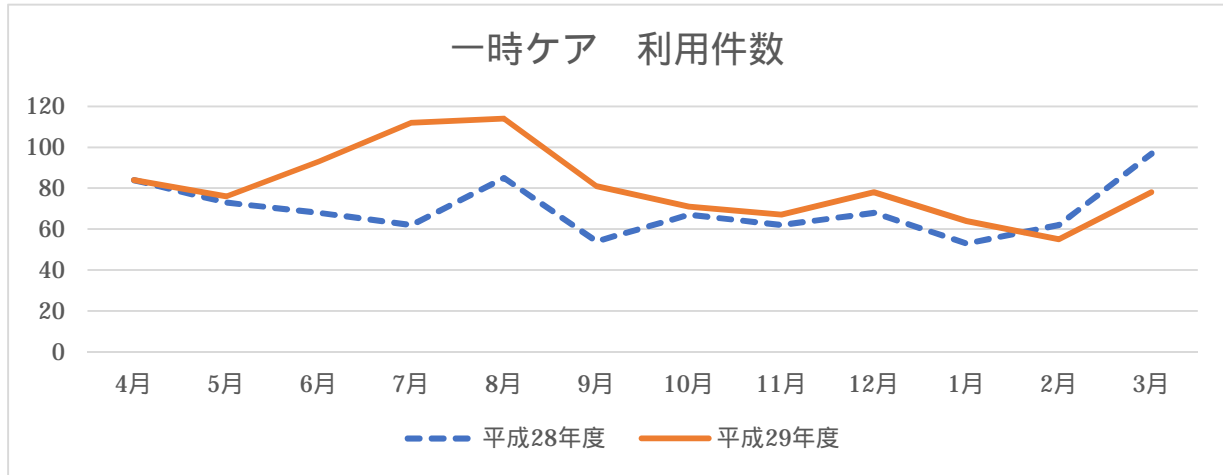
振り返り・記録作成 毎日 16:30~17:00

## 生活支援事業

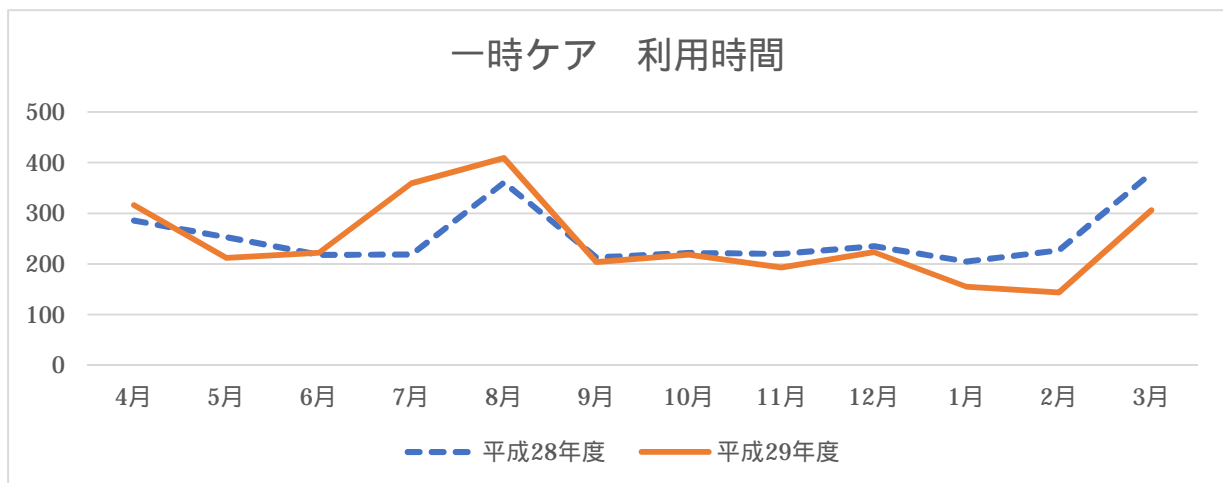
### (1) 一時ケア

平成 29 年度一時ケア利用件数 973 件(うち緊急利用 101 件)、利用時間 2959 時間、送迎件数 504 件  
 になっています。

放課後等児童デイサービス利用への流れは変わらず、平日・休日を問わず利用者数の減少は続いてい  
 ます。それでも利用件数が前年度より増加しているのは、6 月から日中活動のサービス提供時間が短  
 縮されたことにより発生した短時間の一時ケアによるものです。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 28 年度	84	73	68	62	85	54	67	62	68	53	62	97	835
平成 29 年度	84	76	93	112	114	81	71	67	78	64	55	78	973

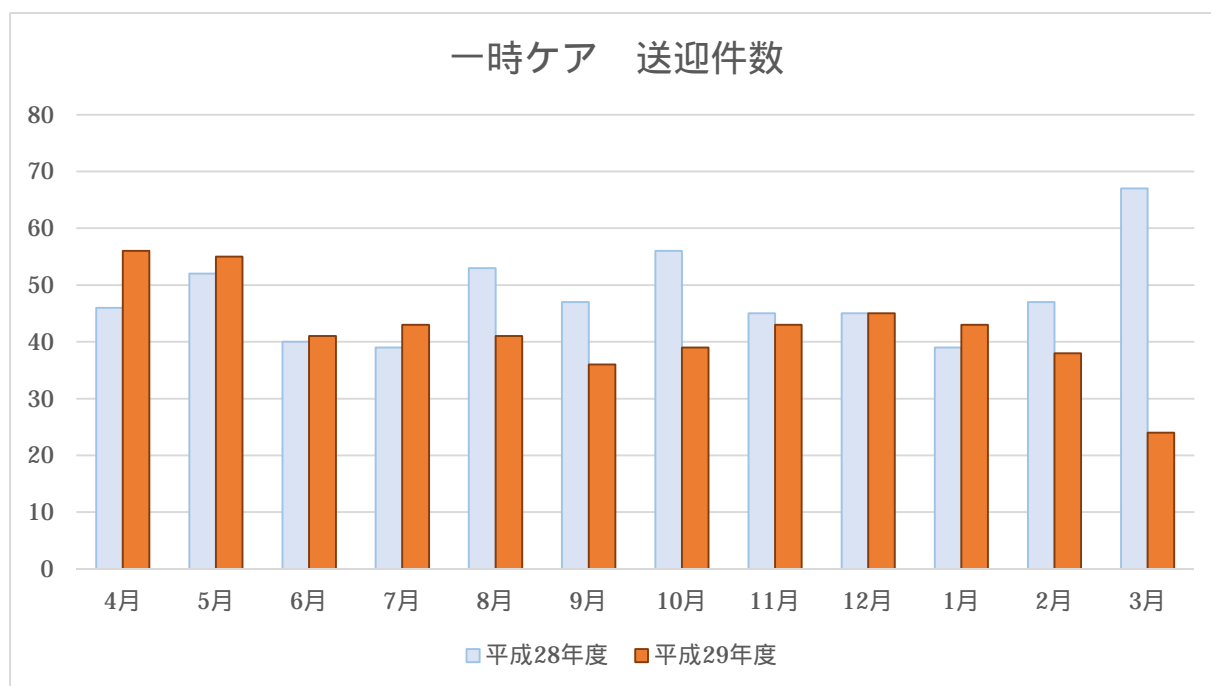


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 28 年度	286	253	218	219	361	213	222	220	235	205	227	380	3037
平成 29 年度	316	212	222	359	410	204	218	193	223	155	144	306	2959

利用件数前年度比 138 件増に対し、利用時間別の割合は～2 時間が前年度比 164 件増となっています。これは日中活動のサービス提供時間変更によって発生した短時間の一時ケア扱いの件数が大幅に増加した事を表しています。送迎件数も一時ケア件数に伴い減少が進んでいます。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
～2時間	30	33	56	60	54	46	36	30	41	40	28	31	485
～4時間	21	28	19	13	16	22	15	22	20	14	18	13	221
～6時間	13	7	14	18	17	8	7	8	10	6	7	18	133
～8時間	19	8	4	20	23	4	13	7	6	4	2	14	124
～10時間	1	0	0	1	4	1	0	0	1	0	0	2	10
11時間～	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	84	76	93	112	114	81	71	67	78	64	55	78	973

一時ケア 利用時間別割合



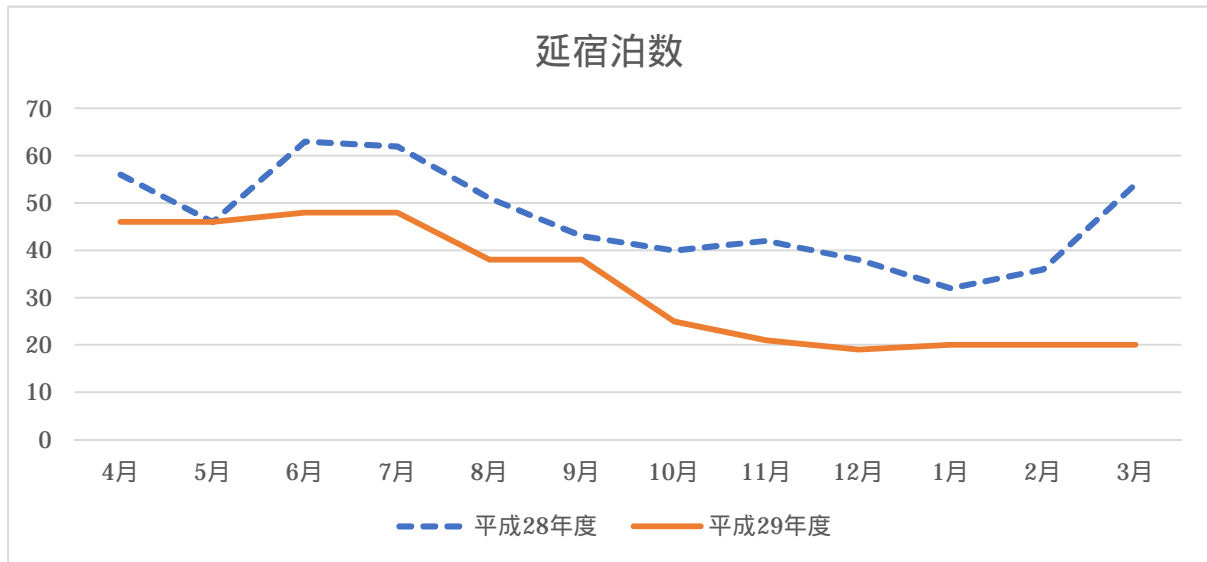
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 28 年度	46	52	40	39	53	47	56	45	45	39	47	67	576
平成 29 年度	56	55	41	43	41	36	39	43	45	43	38	24	504

利用者が安心して過ごせる場を常に提供できるよう、関係機関・通所先・通学先との連携を図り、カンファレンス等を積極的に実施・参加してまいりました。また、通所先・通学先や他施設などにも必要に応じて見学も行っております。

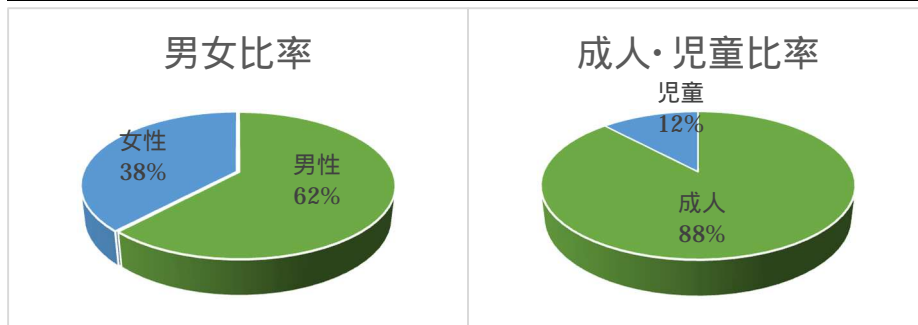
4月	児童	協力機関との定例ケースカンファレンス
5月	成人	モニタリング時のカンファレンス
	児童	施設見学(利用者のご様子)
	児童	サービス導入時に向けた話し合い
	成人	施設見学(利用者のご様子)
	児童	現状確認・情報共有と今後の支援方針について
6月	成人	施設見学(利用者のご様子)
	児童	協力機関との定例ケースカンファレンス
	児童	モニタリング時のカンファレンス
7月	成人	現状確認・情報共有と今後の支援方針について
8月	児童	現状確認・情報共有と今後の支援方針について
9月	児童	協力機関との定例ケースカンファレンス
	児童	施設見学(利用者のご様子)
10月	児童	現状確認・情報共有と今後の支援方針について
	児童	協力機関との定例ケースカンファレンス
11月	成人	施設見学(利用者のご様子)
	児童	協力機関との定例ケースカンファレンス
12月	児童	中区自立支援協議会 児童部会
	成人	現状確認・情報共有と今後の支援方針について
1月	成人	現状確認・情報共有と今後の支援方針について
	児童	現状確認・情報共有と今後の支援方針について
	児童	中区自立支援協議会 児童部会(分科会)
2月	成人	現状確認・情報共有と今後の支援方針について
	児童	中区自立支援協議会 児童部会
3月	成人	現状確認・情報共有と今後の支援方針について

(2) ショートステイ

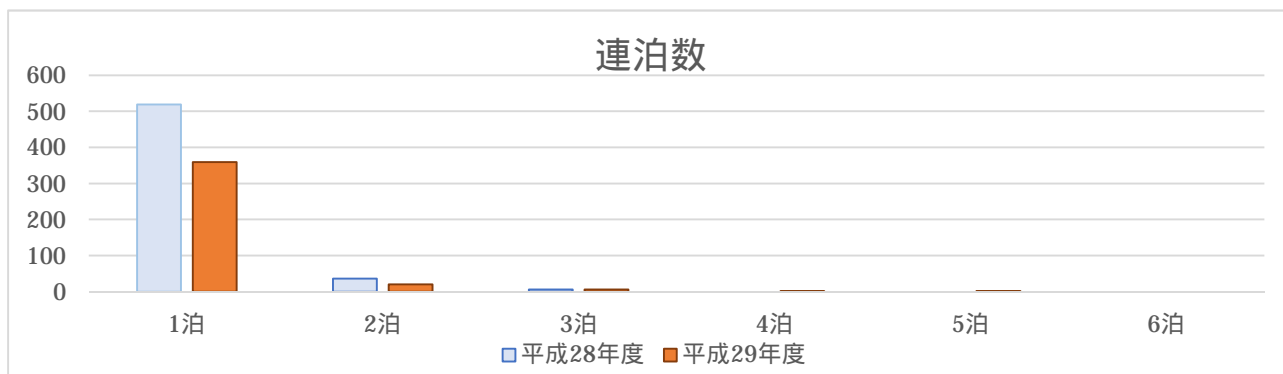
宿泊人数 275 名、宿泊延数 389 泊(うち緊急利用 14 泊)になっています。職員の勤務確保が困難な為、開所初年度に次ぐ宿泊延数の低い数字になっており、利用申し込みをされる方々にはご迷惑をお掛けしております。いざという時にも安心して利用できる活動ホームを目指して支援体制を整えていきたいと思ひます。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 28 年度	56	46	63	62	51	43	40	42	38	32	36	54	561
平成 29 年度	46	46	48	48	38	38	25	21	19	20	20	20	389



前年度に引き続き、成人の比率が更に上昇しております。保護者の高齢化によりご家族の力だけでは過ごせない方の著しい増加が主なケースになっています。登録・利用があった方でもご本人やご家族の健康状態に変化があったり、所属先の作業所等のみで他のサービス利用に繋がっていなかったりと、いずれも加齢・高齢が要因となっております。依頼があってからのショートステイ対応では限界があるため、基幹相談との連携で利用者のご家族の状況把握を迅速に行いたいと思ひます。



	1泊	2泊	3泊	4泊	5泊	6泊
平成 28 年度	519	36	6	0	0	0
平成 29 年度	359	20	6	2	2	0

### (3) 余暇活動支援

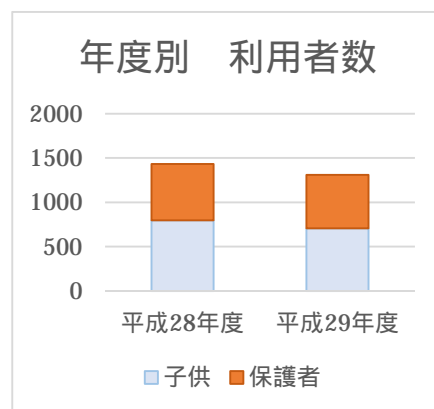
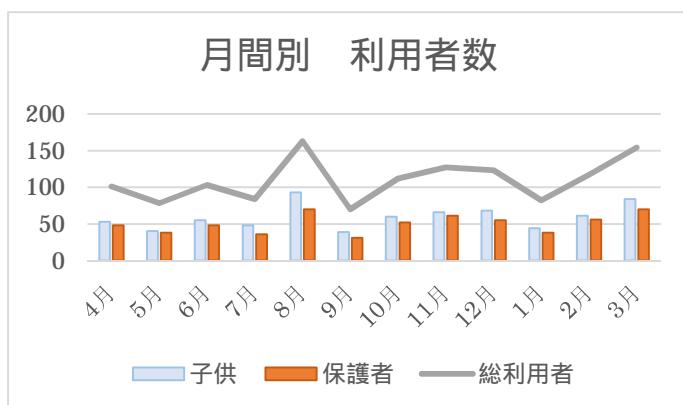
計画・実施なし。

### (4) おもちゃ文庫

今年度の総利用者数は1,308名。昨年度の1,389名から81名減となっております。傾向としては障害児の利用及び相談・利用登録に繋がる事例が増えました。今年度は月に1回のイベント開催を実施し、おもちゃ文庫に足を運んで頂く機会を多く作るように致しました。

・実施日 259日

・利用状況



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
大人	48	38	48	36	70	31	52	61	55	38	56	70	602
こども	53	40	55	48	93	39	60	66	68	44	61	84	706
うち障害児	7	1	2	2	11	6	2	3	6	8	5	14	71
合計	101	78	103	84	163	70	112	127	123	82	117	154	1,308



実施日	イベント内容	参加人数 (大人)	参加人数 (子供)	参加人数 (合計)
4月18日(火)	こいのぼりを作ろう	7	7	14
5月16日(火)	パネルシアター	2	2	4
6月13日(火)	がちゃがちゃおんがくたい	5	6	11
7月18日(火)	エプロンシアター	4	6	10
8月22日(火)	おさかなを作ろう	7	10	17
9月12日(火)	パネルシアター	3	3	6
10月17日(火)	みんなでへんしん	2	2	4
11月14日(火)	クリスマスツリーを作ろう	4	4	8
12月13日(水)	クリスマス会 (スペシャルイベント)	26	28	54
1月16日(火)	ペープサート	4	4	8
2月13日(火)	おひなさまを作ろう	6	7	13
3月13日(火)	パネルシアター	7	7	14
	合計	<b>77</b>	<b>86</b>	<b>163</b>

イベント内容は参加者数・アンケート結果共に、工作系のイベントが好評でした。お子様だけではなく保護者の方も一緒に制作に携わり、ご家庭に持ち帰った後も引き続き家族で楽しめる事が要因だと思われまます。購入品目もイベント用備品が増えましたが、月平均3,000円程度の出費に対しての集客力は確保できました。

月	購入物	月	購入物
4	装飾用備品	10	イベント用備品
5	装飾用備品	11	クリスマスイベント用備品
6	イベント用楽器	12	クリスマスイベント用楽器
7	装飾用備品	1	装飾用備品
8	装飾用備品、イベント用備品	2	装飾用備品
9	イベント用備品	3	遊具、楽器

## 地域交流活動

今年度も地域との交流を行いました。

4月 大岡川さくらまつり / 7月 新山下地区夏まつり  
10月 ハローよこはま/ポレポレまつり / 11月 文化学園大学 紫友会  
1月 第二地区連合町内会餅つき大会 / 2月 ポンテまつり  
3月 地域交流事業  
随時 新山下運河遊歩道花いっぱい運動（第二地区元気づくり協議会）

各種会議を開催しました。

## 責任者会議

29年度は、隔週7：30～8：30開催を定例とし、その他必要に応じて随時開催しました。各部署の責任者で施設運営について話し合いました。下半期より、瀬戸理事長も参加し、運営に関わる内容は迅速に対応できるような流れが出来ました。

## 安全委員会

毎月1回定例開催しました。

部署ごとに一月分の事故報告の集計を提出し、検証をおこない同じ事故が繰り返りかえし起きていないか、対策方法の成果が出ているかの確認作業を行いました。

報告書を出して終りにならない仕組みが出来ました。

## 利用者検討会議

毎月1回定例開催しました。

通所希望、一時ケア、ショートステイの利用時間等で、検討する必要がある案件について、責任者、相談員で調整会をしました。

緊急性、個別性の高い利用者が増えてきているため、受け入れる部署だけで判断するのではなく、部署を超えて検討することで、施設全体で受け入れる意識につながりました。

## 給食会議

毎月1回定例開催しました。

委託業者「ニチダン」のエリアマネージャー、管理栄養士および店長と、日中活動給食担当職員にて、情報共有を行いました。

利用者の高齢化と、障害の多様化で、食形態の見直しやアレルギー除去食の確認など

丁寧に行うことが重要になってきています。事故防止のためにも、コミュニケーションを図り、利用者一人ひとりの顔が見える関係を作りました。

## 送迎ミーティング

毎月1回定例開催しました。

送迎事業の委託先である「移動サービス協議会」の責任者およびドライバーと情報共有の会議を行いました。29年度は、日中活動のスタッフが会議に参加することができず、所長が参加しました。日々の動きなど、具体的な情報共有が出来ませんでした。今後は、直接送迎に関わっているスタッフが会議に参加できるようにしていきます。

## 研修報告

### 4 法人合同研修

地域を知る(4/15)・権利擁護(5/13)・障害体験(6/3)・権利擁護(7/8)

メンタルヘルスGH職員向け(7/12)・メンタルヘルス 管理者向け(7/19)

防災研修(9/23)・権利擁護(12/9)・個人情報保護法(3/6)

4/26	横浜市こころの健康相談センター主催 精神保健基礎研修
4/28	平成29年度 横浜市相談支援基礎研修
5/4	2017年度神奈川県委託「介護職員に対する喀痰吸引等研修事業委託
5/9	神奈川県サービス管理責任者補足研修
5/30	2017年度神奈川県委託「介護職員に対する喀痰吸引等研修事業委託
6/11	平成29年度 実習指導者養成教育(社会福祉士)
6/27	第4回 わが街よこはまの相談支援を考える!
7/5	平成29年度横浜市強度行動障害支援向上研修
8/11	強度行動障害支援者養成研修
8/30	退院後生活環境相談員・地域援助事業者研修会
8/31	平成29年度第1回 重症心身障害児支援実務研修(初心者向け)
9/7	4法人合同防災研修
9/9	2017年 野中方式事例検討会の研修
9/20	相談支援専門員の資格更新のため、相談支援従事者現認研修
9/27	平成29年度 横浜市相談支援研究 と の研修
10/4	ストレスチャック実施者研修
10/10	横浜市 食品衛生責任者養成講習
11/27	サービス管理責任者研修
12/21	株式会社マイナー主催のマイナビ操作講習会
2/22	食品衛生責任者講習会

外部研修

## 中区後見的支援室 らるご

推進法人・運営法人がチームとなって、支援検討会議等を活用し、登録者お一人お一人に寄り添い、重点目標・具体的な取り組みの達成に向け、支援を進めて参りました。達成状況は下記の通りです。

### 重点目標

地域や他機関と顔の見える関係を構築します。

具体的な取り組みとして、対象者や地域、関係機関等へ支援室開所の周知や制度の説明を年 12 回行うとし、達成できました。

地域や関係機関の方々かららるごが開所したことを知って頂くために支援室内で内覧会を開きました。また説明会の開催やリーフレット・機関紙の発行を通し、障害のある方や関係機関に対しての広報活動を行いました。

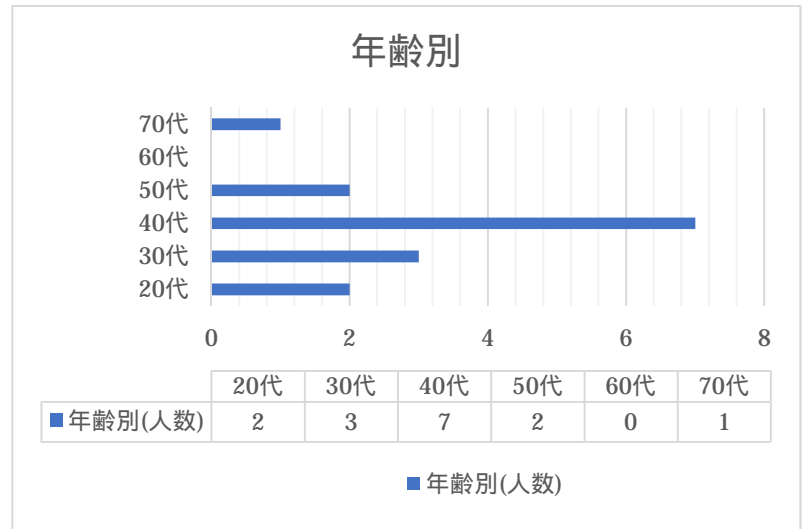
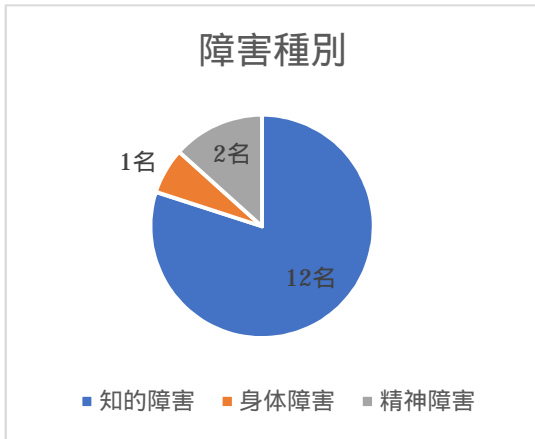
回	開催月	内容	対象機関	参加人数
1	4月	内覧会	ご家族・関係機関向け	16名
2	4月	制度説明会	みはらし家族会	15名
3	4月	制度説明会	自立支援協議会 GH部会	12名
4	4月	制度説明会	本牧会	11名
5	4月	制度説明会	自立支援協議会 計画相談部会	12名
6	5月	制度説明会	自立支援協議会 代表者会議	30名
7	6月	制度説明会	社会福法人同愛会 てらんザウルス わくわくランド	3名
8	7月	制度説明会	中区役所 生活支援課	4名
9	9月	制度説明会	家族会 NAPAS	13名
10	9月	制度説明会	家族会 みなと会	21名
11	12月	制度説明会	チャレンジ新生	1名
12	3月	制度説明会	株式会社ウェルビー桜木町駅前センター	2名

質の高い支援が維持できるよう、計画性を持って登録を行います。

具体的な取り組みとして、登録者数 24 名（12 ヶ月×2 名）を目指しましたが平成 29 年度までに 15 名の登録者数がありました。平成 28 年度 3 月の登録者 1 名は転居により、平成 30 年 1 月に契約終了とし他区へ移管となりました。

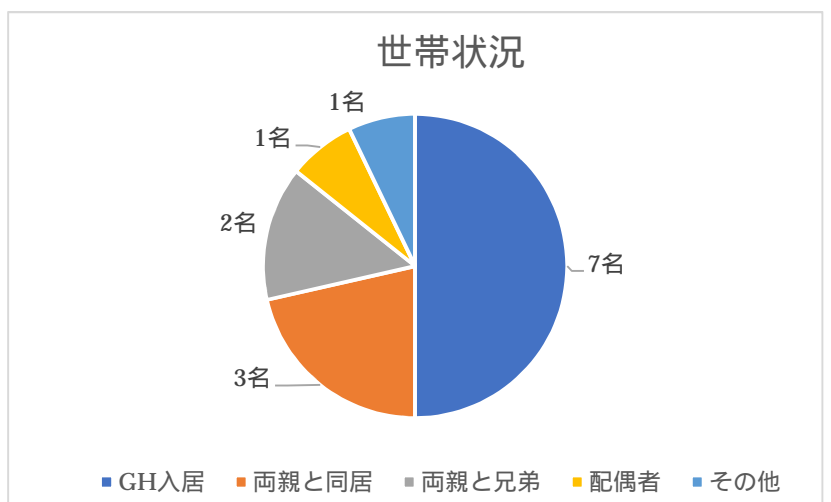
初年度ということもあり、一人ひとり丁寧に登録手続きを行いました。今後も引き続き丁寧に取り組むと共に登録者数を伸ばしていきます。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 28 年度												3名	3名
平成 29 年度	2名	0名	0名	1名	2名	6名	0名	0名	1名	0名	0名	1名	13名



### 男女別

男	女	計
11名	4名	15名



責任者・担当職員・あんしんマネジャー・サポーターがチームとなって、事業に取り組みます。毎月 1 回、支援について協議する支援方針会議と、事業運営について協議するらるご会議を開き課題や支援の進め方をチームで共有し、円滑に取り組めるように進めてきました。